

平成25年行政事業レビューシート (復興庁)						
事業名	東北メディカル・メガバンク(復興関連事業)		担当部局庁	復興庁		作成責任者
事業開始・終了(予定)年度	平成24年度～平成32年度		担当課室	統括官付参事官(予算・会計担当)		参事官 大野 秀敏
会計区分	東日本大震災復興特別会計		政策・施策名	復興施策の推進 東日本大震災からの復興に係る施策の推進		
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	東日本大震災からの復興の基本方針(平成23年7月東日本大震災復興対策本部)、医療イノベーション5か年戦略(平成24年6月医療イノベーション会議)、第4期科学技術基本計画(平成23年8月閣議決定)、科学技術イノベーション総合戦略(平成25年6月閣議決定)		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	東日本大震災の被災地の住民を対象として健康調査を実施し、大規模なバイオバンクを構築。また、健康調査の結果の回付等を通じて被災地の住民の健康管理に貢献するとともに、バイオバンクを用いた解析研究を実施することにより、個別化予防等の基盤を形成し、将来的には、東北発の次世代医療の実現を目指す。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	東日本大震災の被災地に医療関係人材を派遣して住民の同意を得つつ健康調査を実施し、健康調査の結果の回付等を通じて被災地住民の健康不安の解消に貢献するとともに、15万人規模の生体試料、健康情報等が収集されたバイオバンクを構築することで、次世代医療の実現のための基盤を形成する。さらに、協力者から得られたゲノム情報、健康情報、診療情報等を併せて解析することで、遺伝的要因や環境要因と疾患との関係を明らかにし、病気の正確な診断や予防、薬の副作用の低減等の次世代医療の実現を目指す。 (補助率:100%)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他					
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求
		当初予算		5,607	3,936	3,936
		補正予算	15,768	-	-	-
		繰越し等	△ 15,708	15,708	3,869	
	計	60	1,738	7,805	3,936	
	執行額	59	1,714			
執行率(%)		98.3%	98.6%			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標	単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	本事業では、医師の確保や学術的な成果等、副次的な成果は創出されることが想定されるが、本事業の最終的な目標である次世代医療の実現等は、バイオバンクが構築されて以降の研究開発によって実現される。そのため、H25時点で成果目標を設定するのは適当ではないため、活動指標のみをモニターすることが適切と考えられる。	成果実績	-	-	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標	単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	健康調査の実施数 協力者から得られたゲノム情報の解析数	活動実績 (当初見込み) 人検体	-	-	-	- (約20,000) (約1,000)
単位当たりコスト	参考 856(百万円/機関)	算出根拠	平成25年度からリクルートを開始する予定のため、現時点では算出が困難。 参考:856(百万円/機関) =(平成24年度執行額:1,712百万円)/(実施機関数:2)			
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由		
	科学技術振興謝金	1.2百万円	1.2百万円	-		
	科学技術振興職員旅費	1.8百万円	1.8百万円	-		
	科学技術振興委員等旅費	2.9百万円	2.8百万円	単価見直しによる減		
	科学技術振興庁費	0.4百万円	0.5百万円	書籍等消耗品の見直しによる増		
	科学技術試験研究委託費	11.5百万円	8.8百万円	事業の進捗に伴う人件費等の見直しによる減		
	次世代医療研究開発拠点形成事業費補助金	3,917.7百万円	3,920.3百万円	事業の進捗に伴う人件費及び業務実施費の増		
計	3,936百万円	3,936百万円	※表示単位未満四捨五入の関係で、積み上げと合計は一致しない。			

事業所管部局による点検							
	項目	評価	評価に関する説明				
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。	○	・東日本大震災の被災地の復興のために国が取り組むべき施策として、「東日本大震災からの復興の基本方針」、「健康・医療戦略」等に位置づけられている。				
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○					
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	○					
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	・「東日本大震災からの復興の基本方針」において、東北大学を中心として実施すべき、と位置づけられており、そのような方針に従って実施体制を構築している。 ・実施機関に設置したWGにおいて、導入する設備の妥当性を審議し、事業目的に即した予算執行に努めている。				
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○					
	単位当たりコストの水準は妥当か。	-					
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-					
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○					
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-						
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	・被災地の医療復興と将来的な東北発の次世代医療の実現のためには本事業の実施が必須であることが上記のような政府文書によって定められており、さらに先行して実施されているコホートの知見を活用するため、文部科学省に「東北メディカル・メガバンク計画検討会」を設置して提言をまとめるとともに、実施機関にもそれらの関係者が参画するWGを設置し、計画の具体的な実施方法の妥当性等を審議している。また、文部科学省に設置した「東北メディカル・メガバンク計画推進委員会」の助言を得て、事業の進捗管理を実施している。さらに、収集される生体試料、解析して得られたデータは適切な審査を経た上で、我が国の研究機関に幅広く提供できるよう、体制の検討を進めている。				
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-					
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○					
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	○	・オーダーメイド医療の実現化プロジェクトは疾患コホート研究であり、「健康・医療戦略」(平成25年6月)や上記推進委員会等での指摘を踏まえ、本事業との具体的な連携の在り方について検討を進めている。また、他の疾患コホートや健康人コホートとの連携についても、上記WG等で具体的な検討を実施している。				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業番号</th> <th>類似事業名</th> <th>所管府省・部局名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>オーダーメイド医療の実現化プロジェクト</td> <td>文部科学省</td> </tr> </tbody> </table>	事業番号			類似事業名	所管府省・部局名	
事業番号	類似事業名	所管府省・部局名					
	オーダーメイド医療の実現化プロジェクト	文部科学省					
点検結果	上記のような政府文書に定められた方針に沿って、被災地の復興と東北発の次世代医療を実現すべく、他の先行して実施されているコホート等の知見を有効に活用しながら、適切に実施されていると評価できる。具体的には、平成24年度に、文部科学省に「東北メディカル・メガバンク計画推進本部」及び同本部に助言を与える「東北メディカル・メガバンク計画推進委員会(外部有識者で構成)」を設置し、実施機関である東北大学及び岩手医科大学における事業の進捗管理を行う体制を整え、当該予算の早期執行に努めている。また、平成25年度からの本格的な健康調査の開始に向け、東北大学に設置される課題別のWGにおいて、「東北メディカル・メガバンク計画検討会 提言」(平成24年6月 東北メディカル・メガバンク計画検討会)で指摘された事項を踏まえた、コホート調査や解析研究等の具体的な実施計画を平成24年度中に確定した。						
外部有識者の所見							
行政事業レビュー推進チームの所見							
現状通り	被災地の住民の健康管理や、将来的な東北発の次世代医療の実現は、被災地の医療復興の観点から復興に資する必要性の高い事業であり、引き続き効率性に留意しつつ予算の執行を進めること。						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況							
現状通り	事業の目的である、健康調査の結果の回付等を通じた被災地の住民の健康管理に貢献するとともに、大規模なバイオバンクを構築する目的の達成に向け、引き続き効率的・効果的な予算の執行に努めていく。						
備考							
本事業は、文部科学省の事業番号[0022]と一体的に推進している。							
関連する過去のレビューシートの事業番号							
	平成22年		平成23年				
				平成24年			
				33			

※平成24年度実績を記入。

復興庁
1,738百万円
〔 文部科学省へ移替え 〕

文部科学省
1,714百万円

諸謝金 0.9百万円
職員旅費 1.0百万円
委員等旅費 1.1百万円
庁費 0.3百万円 } を含む

〔 東日本大震災の被災地の住民を対象として健康調査を実施し、大規模なバイオバンクを構築。また、健康調査の結果の回付等を通じて被災地の住民の健康管理に貢献するとともに、バイオバンクを用いた解析研究を実施することにより、個別化予防等の基盤を形成し、将来的には、東北発の次世代医療の実現を目指す。 〕

〔 補助 〕

A. 次世代医療研究開発拠点形成事業費
補助金
:1,707百万円

国立大学法人 東北大学 1,199百万円	学校法人 岩手医科大学 508百万円
----------------------------	--------------------------

〔 東北メディカル・メガバンク計画の実施 〕

〔 補助 〕

B. 東北メディカル・メガバンク計画
支援事業
:3百万円

独立行政法人科学技術振興機構

〔 東北メディカル・メガバンク計画事業における研究の評価、事業の管理等の支援事務 〕

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

※表示単位未満四捨五入の関係で積み上げと合計は一致しない

A.国立大学法人東北大学			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	研究員、事業職員	313			
設備備品費	DNA抽出自動化システム(大容量自動核酸精製装置)等	604			
消耗品費	解析研究等に係る消耗品等	183			
その他	その他運営経費(旅費等)	98			
計		1,199	計		0
B.(独)科学技術振興機構			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
委託費	支援業務委託費	3			
計		3	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックごと
 に最大の金額が
 支出されている者
 について記載す
 る。費目と使途の
 双方で実情が分
 かるように記載)

※表示単位未満四捨五入の関係で、積み上げと合計は一致しない。

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	国立大学法人東北大学	東北メディカル・メガバンク計画の実施	1,199	—	—
2	学校法人岩手医科大学	東北メディカル・メガバンク計画の実施	508	—	—
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※補助事業

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	独立行政法人科学技術振興機構	東北メディカル・メガバンク計画事業の研究の評価、事業の管理等の支援事務	3	企画競争	—
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					